

# 吟剣詩苑

g i n k e n s h i b u

日本財団助成事業  
高松宮妃癌研究基金奉賛

第53回全国吟剣詩舞道大会  
師走の千葉に高らかに響く  
吟剣詩舞道讃歌

アジア・フィランソロピー会議2023

剣詩舞スーパージーム、  
アジアの中の日本を発信

表紙の詩

西南の役陣中の作 佐々友房

雨は戦袍を撲ち風沙を捲く

江山十里両三家

壮図一蹶窮り無きの恨み

馬を断橋に立てて落花を看る

2

令和6年  
睦月

5分間にわたる演舞を終え、喝采を浴びる剣詩舞スーパーチーム。一曲だけではあったが、日本の伝統芸能と現代音楽との融合を海外の人々に強くアピールした



# 剣詩舞スーパーチームが「アジア・フイランソロピィー会議2023」で公演

## スーパーチーム、アジアの中の日本を発信

日時：令和5年12月1日(金)  
場所：東京都目黒区 ホテル雅叙園東京  
主催：公益財団法人 日本財団

「吟剣詩舞を広く知らしめる」という目的のために生まれて8年。これまでシカゴ公演、豪華客船での演舞、国際会議のアトラクションなど幅広い活躍を見せてきたスーパーチーム。このほど東京のホテル雅叙園東京にて開催された「アジア・フイランソロピィー会議2023」のオープニングに登場、アジア各国から集まった出席者の前で華麗かつ勇壮な舞を披露し、吟剣詩舞を初めて見た海外の人々から盛大な拍手喝采を浴びました。



### 開会の挨拶 アジア各国の協力を強調 日本財団 笹川陽平会長

スーパーチームの演舞が終わり、開会の挨拶を行う日本財団の笹川陽平会長。まずはインクルーシブ社会の実現に向けた日本財団の取り組みの1つとして、国立国会図書館の印刷物や書類のデジタル化を、障害者の手で行うという事例を紹介。さらに世界の中でもっとも将来的な成長の可能性を秘めているアジアの重要性を強調。「課題先進国である日本の経験と知識を共有すると同時に、このシンポジウムが多様性に富むアジアで起こる社会問題の解決のためにアジア諸国が共に協力する、大きな活動の拠点になればいい」と参加者に訴えた。



2回目となる今回はDE&I(Diversity=多様性、Equity=公平性、Inclusion=包括性)をテーマにし、議論のプラットフォームを形成することを目指した。写真は会場入口の看板



開演前に笹川陽平日本財団会長に挨拶する日本吟剣詩舞振興会の3人。左から早淵鯉将スーパーチーム校長、沼崎富会長、池内賢一専務理事

1962年の設立以来、国内外の多様な社会課題解決に取り組んでいる日本財団。人類愛に基づいて利他的活動や奉仕的活動を行う「フイランソロピィー」もその一つ。慈善団体だけでなく、社会起業家などビジネスの分野におけるフイランソロピィー活動も活発化しており、今後ビジネスセクターや政府を巻き込んだ新たな戦略作りが必須ということから、日本財団は2022年11月19日に東京にて、アジア各国のフイランソロピストを招聘し、「アジア・フイランソロピィー会議2022」を開催しました。会議ではアジアの課題の洗い出しや解決に向けた活発な議論が交わされ、フイランソロピィーとビジネス



アジア各国から約200人の関係者が参加した「アジア・フイランソロピィー会議2023」のオープニングにて、『PASSION～火焰の如く～』を披露する剣詩舞スーパーチームの5人



会場の規模の問題もあり、東京在住者を中心に剣舞2人、詩舞3人が参加。左から多田正千衣、五月女凱昂、見城星梅月、増井鯉冠、長澤美心各メンバー

セクターが協働することの重要性が確認されました。これらの成果を踏まえて、2023年12月、アジアにおけるフイランソロピィー関係者間のネットワークを強化し、議論のプラットフォームを形成することを目指し、第2回目の会議を開催することになりました。

ホテル雅叙園東京の2階「華つどい」に集合。笹川陽平日本財団会長の開会の挨拶に先駆けて、剣詩舞スーパーチームの5人が『PASSION～火焰の如く～』を披露することに。早淵鯉将スーパーチーム校長の指導のもと、朝8時から会場で入念なりハールサルを行った5人は、立ち位置やフォーメーションをチェック。9時半からの本番に臨みます。そして迎えたオープニングアクター。照明が落とされた中を5人が登場、扇で顔を隠して蹲踞の姿勢をとると、シンセサイザーによるおなじみ

のテーマが流れます。そして次々に舞い始める5人。剣詩舞スーパーチームにとっては、デビューした2015年の武道館大会以来、何度も行ってきた十八番とも言える曲ですが、吟剣詩舞を初めて見る、まして外国人の前で舞うというのは、また特別な緊張感に包まれます。そんな中で5分間の演舞を終えた5人は、整列して深々と礼。会場を埋めたアジア各国の参加者から、惜しみない拍手が贈られ、オープニングの大役を務めました。

### 国際舞台で吟剣詩舞を披露する意義

#### スーパーチーム早淵鯉将校長

「今回は特に笹川陽平日本財団会長ご出席の場での演舞となり、私の方が緊張していたかもしれません。演舞については、仮設舞台に加えて天井の低い梁が剣舞メンバーにはかなりの重圧になっていたと思いますが、すでに豪華客船で経験済みであったために、その難しさを見せない演舞であったと思います。海外からのお客様がおられる場面での吟剣詩舞披露は、必ずしも我々の演舞を見に来たというわけではありません。そのため今回のような状況では、耳慣れた音楽で舞うことも必要かと思い、そうした楽曲を選択しました」

#### 見城星梅月詩舞リーダー

「それぞれの環境下で精進する若手舞踊家が集まり、言葉を越えた感情やメッセージを表現することは、観る人の共感や理解を得られる貴重な機会だと思いますし、吟剣詩舞という日本の伝統芸能と現代的な曲調に合わす表現によって日本文化の多様性もアピールできたと思いますので、今回のようなDE&Iのテーマともリンクしていると感じました。多様性を受け入れていただくことで、このような組織に豊かさをもたらすことができると考えております」